

鉄鋼事業部門

2,903億円 (前年同期比 △14.2%)

- 鋼材販売数量：国内の自動車や造船向けを中心に前年同期並も、輸出減少のため、前年同期比減
- 鋼材販売価格：主原料価格下落や円高の影響などにより、前年同期を下回る
- 鍛鋼品売上高：国内造船向け需要が堅調に推移も、中国造船向け需要減少などにより、前年同期比減
- チタン製品売上高：円高の影響あるも、数量増により、前年同期比増
- 経常損益：前年同期比86億円悪化の98億円の損失




加古川製鉄所

溶接事業部門

422億円 (前年同期比 △9.4%)

- 溶接材料販売数量：国内の建築やエネルギー向けの需要回復の遅れや中国・米国向け需要の低調な推移により、前年同期比減
- 溶接システム売上高：国内建築向け需要が堅調に推移し、前年同期比増
- 経常利益：前年同期比4億円減益の38億円



フラックス入りワイヤ(FCW)

アルミ・銅事業部門

1,629億円 (前年同期比 △8.6%)

- アルミ圧延品販売数量：飲料用缶材や自動車向けの需要が堅調に推移し、前年同期比増
- 銅圧延品販売数量：前年同期比増
[銅板条]自動車用端子や半導体向け需要が前年同期並
[銅管]エアコン向け需要が堅調に推移
- 経常利益：原料価格下落に伴う在庫評価影響の悪化などにより、前年同期比28億円減益の65億円




アルミボトル缶材

機械事業部門

720億円 (前年同期比 △11.4%)

- 受注高：エネルギー関連業界向けの需要低迷と円高の影響により、前年同期比24.1%減の558億円
- 当期末受注残高：1,246億円
- 経常利益：コスト低減による採算改善などにより、前年同期比9億円増益の37億円

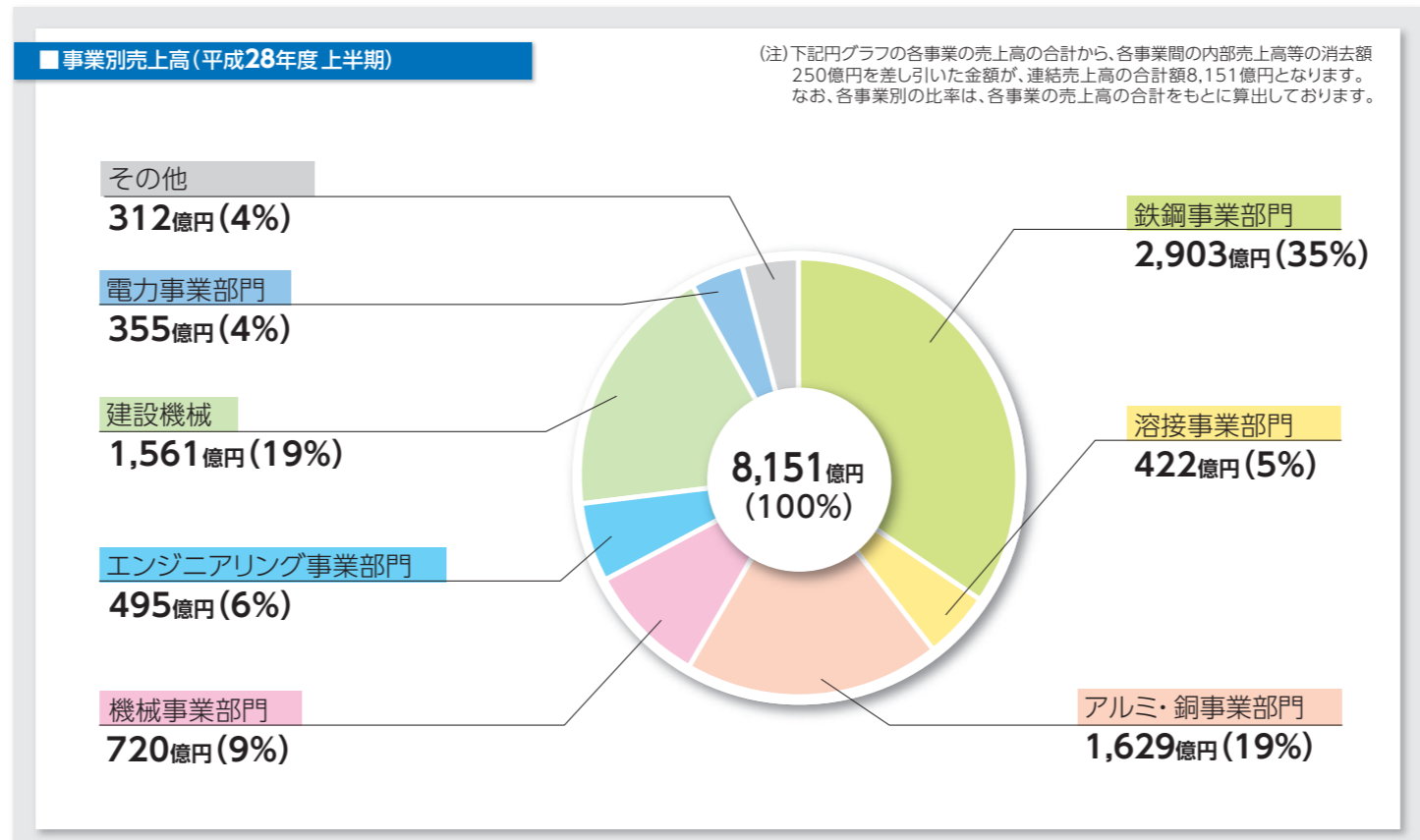
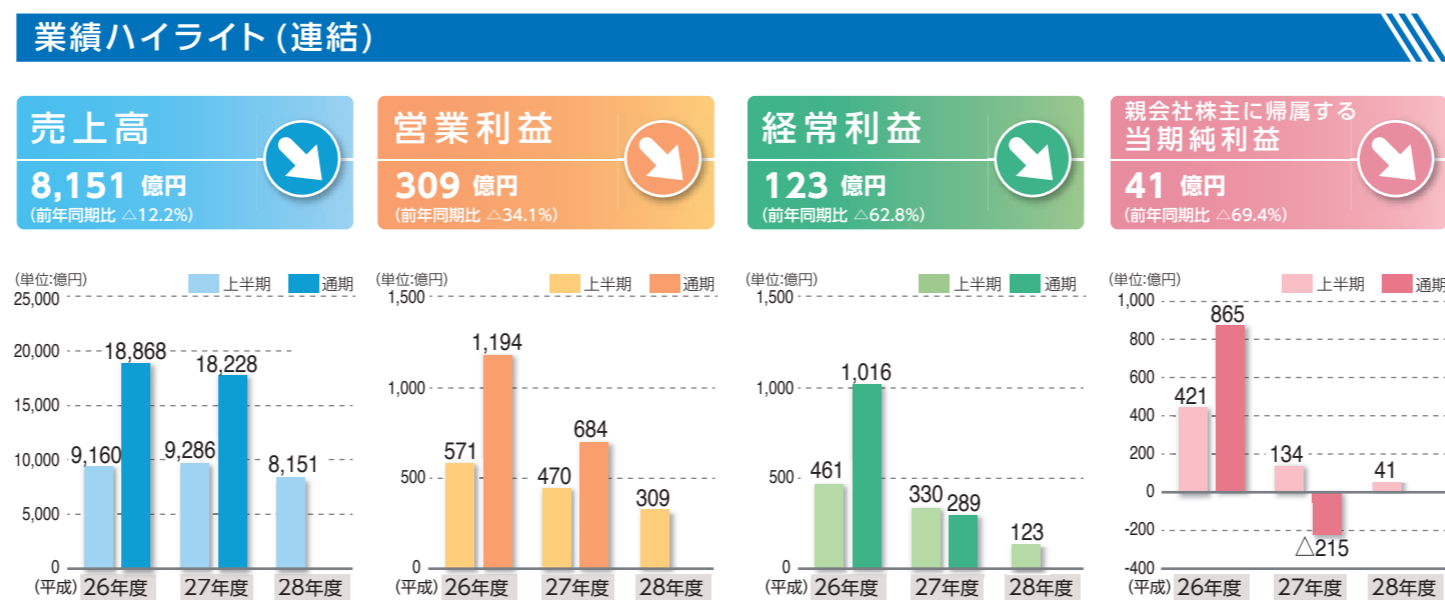


ギア内蔵ターボ圧縮機

当期の概況

当社グループの鋼材の販売数量は国内では前年同期並に推移した一方、輸出が減少したことから前年同期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は前年同期を上回り、銅圧延品の販売数量は前年同期並に推移しました。油圧ショベルの販売台数は国内や中国等において前年同期を下回りました。


この結果、当上半期の売上高は前年同期比1,134億円減収の8,151億円となり、営業利益は前年同期比160億円減益の309億円、経常利益は前年同期比207億円減益の123億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比93億円減益の41億円となりました。



エンジニアリング事業部門

495億円 (前年同期比 △13.6%)

- 受注高：海外での還元鉄プラント案件や国内での廃棄物処理プラント案件受注があるも、前年同期比9.5%減の806億円
- 当期末受注残高：1,468億円
- 経常利益：前年同期比26億円減益の0億円




京都市鳥羽水環境保全センター
消化ガス天然ガス化装置

建設機械

1,561億円 (前年同期比 △13.9%)

- 油圧ショベル販売台数：前年同期比減
[国内]需要減少
[海外]中国で販売条件を厳格化し営業活動に取り組む中、需要低迷継続
- クローラークレーン販売台数：東南アジアを中心に需要減少し、前年同期比減
- 経常損益：販売台数減少や円高による採算悪化などにより、前年同期比25億円減益の5億円の損失




ハイブリッド油圧ショベル
クローラークレーン

電力事業部門

355億円 (前年同期比 △8.5%)

- 販売電力量：前年同期並
- 電力単価：燃料費調整により、前年同期を下回る
- 経常利益：保全費減少などにより、前年同期比2億円増益の83億円



神戸発電所

その他

312億円 (前年同期比 △12.4%)

- 神鋼不動産：[分譲事業]引渡戸数減少 [賃貸事業]堅調に推移
- コベルコ科研：自動車向け試験研究事業やフラットパネルディスプレイ向けターゲット材の受注減
- その他の事業全体の経常利益：前年同期比13億円減益の20億円



シークレフ
須磨名谷レジデンス
第2期

※本年4月1日付での電力事業部門の新設、コベルコ建設株式会社とコベルコクレーン株式会社の経営統合および株式会社神鋼環境ソリューションのエンジニアリングセグメントへの組入により、報告セグメントを「鉄鋼」、「溶接」、「アルミ・銅」、「機械」、「エンジニアリング」、「建設機械」、「電力」および「その他」に変更しました。

(注) 表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。各事業名の下に数字は売上高を記載しています。